

第3回 加賀温泉駅施設整備検討委員会 議事概要

日時 平成29年 2月1日（月）10：00～12：00
場所 アビオシティ・ホール会議室

出席者 水野委員長、竹内委員、上口委員、中道委員（代理）、鹿野委員、古場田委員、師池委員、小中出委員、丸谷委員、長谷川委員、井野上委員、新滝委員
（欠席）

事務局 加賀市 眞田部長、高本次長、中野室長、屋後参事、野崎氏、山本氏
金沢計画 蜂谷教授、北出氏、坂田氏
日本海コンサルタント 小滝、柳瀬、小坂、上野

<次第>

1. 開会 委員長挨拶
2. 協議事項について
 - (1) 第2回委員会および専門部会での意見とその対応
 - (2) 交通結節点機能の検討
 - (3) 景観形成機能の検討
 - (4) 休憩・待合・交流・観光情報機能の検討
 - (5) 今後のスケジュール
3. 意見交換
4. 閉会

●水野委員長あいさつ

本来は12月くらいに開催すべきであったが、関係機関との協議を実施していた。昨日金沢でコンベンション施設の協議があり、市内施設の機能不足が明確になった。一方、新幹線効果は続いており、需要は高まっている。金沢、富山は新幹線開通に向けて、様々な準備してきたことが、今成果を出している。加賀温泉駅においても目標を明確に立てていくべきで、今回が最終委員会になるが忌憚のない意見を頂いて、基本的な方針を本日見出したいと考えている。

●事務局より資料説明（事務局）

- (1) 第2回委員会および専門部会での意見とその対応
- (2) 交通結節点機能の検討
- (3) 景観形成機能の検討
- (4) 休憩・待合・交流・観光情報機能の検討
- (5) 今後のスケジュール

水野委員長 質問はないか。

新滝委員 当初の話の再確認をしたいが、構内通路が自由化できないとの話であったが、そのデメリットについて説明をお願いしたい。

事務局 利点は、北側から新幹線へアクセスしやすい点や改札口を1箇所に集約できる点である。デメリットは、距離的な差は少ないが、北側から南北通路を通して回り込む点がある。

鹿野委員 都市施設が出来、室内を通るので距離的な抵抗は少なくなるのではないか。通路をイメージアップすれば形になる。

新滝委員 南北自由通路は屋内になるのか。

事務局 閉じた空間を想定しているが、少なくとも半屋外になることを考えている。

水野委員長) IRになった時に、改札が2つになるデメリットがある。市としての交渉の結果、この形になった。あとは県とJRの協議内容になる。この委員会としてこれを認めるかが判断になる。

師池委員) JRや県との協議は行ったのか。

事務局) 県との協議も実施している。

師池委員) 県からできないという意見はないか。

事務局) 具体には言われていない。

小中出委員) 都市施設と店舗の観光物産が離れている。都市施設配置を変えるために、新幹線駅舎のゾーンの位置を変えられないのか。デザインアメニティ部会でも出ていた意見だが、どのように検討したのか。そうすれば構内通路から軸線として通せるのではないか。

事務局) 駅舎と都市施設の入れ替えは困難。鉄道運輸機構で決定事項であり、変えられない条件である。

中道委員) 基本的に配置が分散している。アビオシティと都市施設は連携すべきであろう。配置を変えることで充実できるのではないか。また、タクシー乗り場の前に何か施設は設けられないのか。

師池委員) 都市施設内の配置について、伝統工芸が奥に追いやられた感じがある。観光案内は利用する方が多く、施設内の回遊を考えると取って離してもいいのではないか。アビオとの内容の重複についても検討すべきである。

事務局) 内容についてはアビオとの調整も必要であると考えている。都市施設内のゾーニングについてはご意見をいただきたい。タクシー前の空間については、施設の配置は難しく、歩行者動線として確保することになる。

事務局) 伝統工芸が目玉になると考え奥に配置している。都市施設については、物販は買い忘れたお土産を買う場、飲食は軽食程度としアビオシティとの差別化を図るものと考えている。アビオとの繋がりには5mの屋根付きの歩行スペースを確保する。

新滝委員) 屋根付き通路は風よけがつくのか。

事務局) 必要に応じて設置可能な箇所には付けることが出来る。

井野上委員) バスと一般車との配置を逆にする方が、利便性が高いのではないか。

水野委員長) コンコースに接して都市施設があることで利便性が高まる。それを離すと黒部宇奈月温泉駅のように人が来ない施設となる。交通施設について補足説明をお願いしたい。

事務局) 交通施設について説明

新滝委員) 都市施設については、アビオシティと機能の分担として、手狭な待合となったり、中途半端な物販にしたりするのではなく、優先順位を考えて欲しい。また、バスについて、ラウンドアバウトで上手く交通処理ができるか。

事務局) ラウンドアバウトについては、現状のバス優先ではなく、バスと自動車の両方が通行しやすいようになるよう、検討している。

新滝委員) 大型バスが通過しても大丈夫か。

事務局) 幅員が十分あり、また駅前に設置された事例もあり安全に通行できる。

新滝委員) バスロータリーの南側に緑地帯が大きく確保されているが非効率では。

事務局) 南側の未利用地への施設拡張を想定しており、そのため緑地にしている。

新滝委員) 送迎バスまでの間に出来る限り屋根をかけて、お客さんが雨に濡れないよう検討して欲しい。

鹿野委員) 駅舎の配置については確定しているため、できない話が多い。理想形とは遠い形になってしまっている。市が動いているのは理解できるが、県の対応はどうなっているか。交通部会の意見があまり反映されていない様に感じる。かがやきが停車するのは観光駅であるが、IRの駅として住民の利便性も考える必要がある。送迎もピークでは不足している。観光バス需要が多くなった場合にバスターミナルや臨時スペースの確保が必要ではないか。

環境空間について、観光客がほとんど通らない位置なので、人の流れをどう考えるのか。

水野委員長) 委員会で自由に議論できるのは広場部分で、駅部分は要望になる。しかしJRも地元要望

を聞く姿勢はある。歩行者空間の屋根と商業施設の連続性について、金沢フォーラス側が屋根を繋げる提案をした。アビオシティとの協議により繋がりは工夫できる。

新滝委員) 金沢駅でも観光バス駐車場不足などがある。小松や福井からの送迎も増える可能性があるので、ますます二次交通の充実が重要となる。最初から拡張を考えておく必要がある。植栽も大事だが、交通が重要である。バスと送迎が輻輳する動線が大丈夫なのか。

鹿野委員) 送迎バスが一斉に出入りするので、袋小路状の形状は望ましくないのでは。

新滝委員) 共同運行の話が説明で上がったが、山代旅館組合としては共同運行のハードルが高く、現状の駅へのお迎えからおもてなしである。安易に共同運行を期待しないで欲しい。

事務局) ハードルが高いのは理解している。

新滝委員) 説明に共同運行の話が出たので注意して欲しい。一般車の駐車場についてはどのように検討したのか。

事務局) スペースは少ないが民間の活用も考えていきたい。

丸谷委員) ガラスドームの部分が充実すれば、送迎時間なども調整可能ではないか。ここの充実が重要であろう。6年後に間に合わなくても充実した施設にすべきであろう。

古場田委員) ガラスドームや機能は必要なのか。まず環境空間としてこの空間が必要なのか。動画もスケール感が実際と違う。もう少し見直しが必要ではないか。

今回の案に委員会の議論が反映されていると感じない。ちゃんとコンサルに伝わっているのか疑問である。

事務局) 課題が多く出たので、4回目の委員会を開催したい

竹内委員) 事前に意見を集約すべき。南北口の表記も検討して欲しい。

水野委員長) 交通処理の話は再度議論いただき、内容を固めていく必要がある。

また、仮駅舎が開通時まで残るので、それもどう考えるか議論すべき。

富山は連続立体が遅れたので現状のように工事が続き、金沢に負けたと言われている。委員会を4回に延長して、引き続き議論いただきたい。